

科目名	灸実技3							年度	2025
英語科目名	Moxibustion Practice 3							学期	前期
学科・学年	鍼灸科 2年次		必／選	必	時間数	30	単位数	1	種別※
担当教員	安齋 勉		教員の実務経験		有	実務経験の職種		鍼灸師	

【科目の目的】

- ・灸治療に必要な艾炷を素早くひねれるようにする。
- ・緩和操作法を使い分け、熱量のコントロールが出来るようになる。
- ・1年次とは違う知熱灸を習得する。

・緩

【科目の概要】

素早く、柔らかく艾炷ひねれるようにするため、竹筒を用いた練習をする。
熱量をコントロールするため、空気量調節緩和法と押し込み緩和法を独自の練習用紙で習得する
1年次とは違う大きさ、形の知熱灸を作成し、手際よく出来るようになる。

【到達目標】

- A:竹筒に5分間で100壮の艾を竹筒にひねれるようにする。
筒に張ったティッシュの穴の数が5%以下にする。
B:竹
C:2種類の緩和操作の意義を理解し、実践できる。
D:独自で作成した緩和操作確認シートの合計点数が30点以上になる。
E:知熱灸が同時に4個以上点火できる。

B:竹

【授業の注意点】

授業日数の4分の3以上出席ないと実技試験が受けられません。また、技術習得に必要な提出課題や予習等を必ずすること

評価基準=ループリック

ループリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A	100壮以上ひねることが出来る	100～80壮ひねることが出来る	80～60壮ひねることが出来る	60～50壮ひねることが出来る	50壮未満しかひねることが出来ない。
到達目標 B	穴の数が5%以下	穴の数が10%以下	穴の数が15%以下	穴の数が20%以下	穴の数が25%以上
到達目標 C	2種類の緩和操作を習得し、思い通りの熱コントロールが出来る	1種類の緩和操作で思い通りの熱コントロールが出来る	2種類の緩和操作の形は出来る	1種類のみ緩和操作の形は出来る	2種類とも出来ない
到達目標 D	緩和操作確認シートの点数が30点以上になる	緩和操作確認シートの点数が20～30点の間になる	緩和操作確認シートの点数が10～20点になる	緩和操作確認シートの点数が1桁の点数しか取れない	緩和操作確認シートの点数が0点になる
到達目標 E	知熱灸が同時に5壮以上同時に点火できる	知熱灸が同時に4壮点火できる	知熱灸が同時に3壮点火できる	知熱灸が同時に2壮点火できる	知熱灸が1壮しか点火出来ない

【教科書】

はりきゅう実技（基礎編）東洋療法学校協会編、自作プリント

【参考資料】

経絡経穴概論 医道の日本社編

【成績の評価方法・評価基準】

実技試験（50%）、竹筒点火数（20%）事前課題の提出（10%）、当日課題の提出（10%）、出席状況（10%）

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		灸実技3			年度	2025	
英語表記		Moxibustion Practice 3			学期	前期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル		評価方法	自己評価
1	1年次灸実技技術確認	1年次灸実技技術を再確認し新たな問題点を発見する	1 艾炷大きさと形	米粒大、半米粒大の大きさ形を理解している		4	
			2 点火方法	安全な線香の持ち方と点火位置を理解している			
			3 緩和操作	緩和操作の意味を理解している			
2	竹筒灸	竹筒を使った施灸練習の方法と理解・実践	1 竹筒施灸練習の作成	竹筒施灸練習の意義を理解し正しく作成できる		2	
			2 竹筒施灸練習の実践	竹筒施灸練習を実践し自己評価法を理解できる			
			3 提出課題の説明	事前練習課題の意義と方法を理解している			
3	空気量調節緩和法	空気量調節緩和法の理解と実践	1 竹筒灸練習	30壮以上出来る		2	
			2 空気量調節緩和法の理解	空気量調節緩和法の意義と方法を理解している			
			3 空気量調節緩和法の実践	指の使い方を理解する			
4	押し込み緩和法	押し込み緩和法の理解と実践	1 竹筒灸練習	40壮以上出来る		2	
			2 押し込み緩和法の理解	押し込み緩和法の意義と方法を理解している			
			3 押し込み緩和法の実践	指の使い方を理解する			
5	新しい知熱灸	1年次とは違うやり方の知熱灸を習得する	1 竹筒灸練習	50壮以上出来る		2	
			2 知熱灸の作成方法	知熱灸の形、大きさ、作成時の注意点を理解する			
			3 知熱灸施術の実際	同時に4壮以上安全に点火する方法を理解する			
6	緩和操作確認シート基礎	緩和操作確認シートの使用方法と模擬練習	1 竹筒灸練習	60壮以上出来る		1	
			2 施術者を想定した練習	施術者用シートの作成方法が理解できる			
			3 患者を想定した練習	患者用シートの作成方法が理解できる			
7	知熱緩和確認シート応用①	2種類の緩和操作法を用い施灸感覚を一致させる	1 竹筒灸練習	70壮以上出来る		1	
			2 対面施灸	一致数が3個以上になる			
			3 取穴確認	課題の経穴を正確に取穴できる			
8	知熱緩和確認シート応用②	2種類の緩和操作法を用い施灸感覚を一致させる	1 竹筒灸練習	80壮以上出来る		1	
			2 対面施灸	一致数が5個以上になる			
			3 取穴確認	課題の経穴を正確に取穴できる			
9	知熱緩和確認シート応用③	2種類の緩和操作法を用い施灸感覚を一致させる	1 竹筒灸練習	90壮以上出来る		1	
			2 対面施灸	一致数が8個以上になる			
			3 取穴確認	課題の経穴を正確に取穴できる			
10	知熱緩和確認シート応用④	2種類の緩和操作法を用い施灸感覚を一致させる	1 竹筒灸練習	100壮以上出来る		1	
			2 対面施灸	一致合計点数が10点以上になる			
			3 取穴確認	課題の経穴を正確に取穴できる			
11	知熱緩和確認シート応用⑤	2種類の緩和操作法を用い施灸感覚を一致させる	1 竹筒灸練習	100壮以上出来る		1	
			2 対面施灸	一致合計点数が20点以上になる			
			3 取穴確認	課題の経穴を正確に取穴できる			
12	知熱緩和確認シート応用⑥	2種類の緩和操作法を用い施灸感覚を一致させる	1 竹筒灸練習	100壮以上出来る		1	
			2 対面施灸	一致合計点数が30点以上になる			
			3 取穴確認	課題の経穴を正確に取穴できる			
13	実技テスト（前半）	指導教員に学んだ緩和法を実施する	1 竹筒灸練習	100壮以上出来る		1	
			2 実技試験	2種類の緩和操作法を理解・実践できる			
			3 自主練習	今期学んだ技術を理解・実践できる			
14	実技テスト（後半）	指導教員に学んだ緩和法を実施する	1 竹筒灸練習	100壮以上出来る		1	
			2 実技試験	2種類の緩和操作法を理解・実践できる			
			3 自主練習	今期学んだ技術を理解・実践できる			
15	個別講評	実技試験を個別に講評し今期の振り返りをする	1 竹筒灸練習	100壮以上出来る		1	
			2 自主練習	実技試験をふまえ自分の技術レベルを理解できる			
			3 後期授業の説明	後期灸実技の授業がイメージできる			

評価方法：1. 竹筒灸点火数、2. パフォーマンス評価、3. 課題提出、4. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等